



つなかり



「地域学校協働活動」と「コミュニティ・スクール」の 一体的な取組推進研修会が開催されました。

今年度初めから、感染症拡大防止のため、様々な事業が中止・延期になっていましたが、7/16(木)に、県教委主催による標題の研修会が開催されました。「地域学校協働活動」、「コミュニティ・スクール」に対する関心の高さがうかがえ、参加人数は、ソーシャルディスタンスを保って座席を確保できる最大の人数でした。南予からも多数の学校関係者、連携推進事業関係者の参加がありました。

「地域学校協働活動」と「コミュニティ・スクール」の一体的な取組とは、一言でいうと、「学校と地域が、同じ目標に向って対等な立場で、一体となって協力し活動する」ということです。「コミュニティ・スクールの学校運営協議会」で「同じ目標とは何か」を話し合い、「地域学校協働活動」で「一体となって協力して」活動を行います。この2つの活動の一体的な取組により「学校と地域、双方にとってよい効果がもたらされる」ことが期待されています。

研修会では、午前中に、事業説明に続いて①山口県防府市の「牟礼地域協育ネット協議会（通称＝牟礼ミラクネット）」と②内子町教育委員会の事例発表がありました。

- ① ミラクネットの取組の発表では、「牟礼は一つ 地域まるごと学校」をキャッチフレーズに幼少期から中学卒業までの子どもたちを地域ぐるみで育てる具体的な組織や様々な取組について紹介していただきました。（ちなみに、山口県の公立小中学校のコミュニティ・スクール導入率は100%です。）
- ② 内子町教育委員会の発表では、小田小学校・小田中学校でのコミュニティ・スクール導入にあたり、教育委員会が事務局となり、学校、地域とともに、持続可能で魅力的な学校運営の仕組みをつっていった過程が報告されました。

事例発表の後、これまでならグループ協議やワークショップによって学びを深めるところですが、今回は、参加者それぞれが事例発表を聞いたうえで、自分の地域の状況を振り返るといった個人ワークを行いました。地域と学校の連携について振り返りのチェック項目は下のようなものでした。

- ・その連携は、地域と学校が「**目標を共有**」したものになっていますか？
- ・その連携は、**様々な学校課題にも対応できる**連携ですか？
- ・その連携は、関わる人が入れ替わっても**持続可能な仕組み**になっていますか？
- ・その連携により、関わる人々の「**当事者**」意識は高まっていますか？
- ・その連携は、**未来の学校や地域の姿**を見据えたものですか？

参加者相互の交流を持つことはできませんでしたが、事例発表からの気付きを自分の地域に今後どのように取り入れていくかという発想を得ることができました。学びを深めるため、社会の状況に応じたより効果的な研修の手法を考える必要性も感じました。

午後からのインタビューダイアログでは、会場からの質問を交えつつ、午前の発表とは違う角度から、事例提供者の方々の事業を推進する意気込みや今後の取組についてなど、様々な考えをうかがいました。愛媛大学の遠藤敏朗先生からは、学校教育と学校外教育を含めた「地域教育」の視点から、「子どもにふるさとを！」「学校に応援団を！」「地域に活力を！」、地域と学校の壁をなくして、地域が大きな家族という地域教育の時代をつくってほしいという助言をいただきました。

研修を通して感じたことは、もともと地域と学校のつながりが多い地域ならば、一体的な推進の土台はすでにできているのではないかと思います。今まで地域と学校が一緒に行ってきた活動を整理し、共有した目標に向かって活動を進めれば、学校への支援を地域の活性化のもとになる協働活動とすることができるのではないのでしょうか。南予地域でも、「コミュニティ・スクール」と「地域学校協働活動」が、学校、地域双方にとって魅力的で持続可能な取組として発展していくために、社会教育課も協働していきたいと思えます。

(文責：森竹)